



地方創生 × 大学

大学と地域が 一体となって作る 持続可能な社会

内閣府が中心となって進めている地方創生に向けたSDGs達成への取り組み。

今、全国各地の自治体で持続可能なまちづくりが始まっている。

より良い地域社会を作っていくために、大学が果たすべき役割とは何か。

高知県立大学の事例を紹介する。



高知県立大学 × 高知県

課題先進県から健康長寿県へ
県民大学としての挑戦

高知県立大学は、全国初の4年制大学の看護教育機関として、災害や高齢化、過疎化などの課題を抱える課題先進県の高知県においてさまざまな地域課題と闘ってきた。長きにわたる取り組みにおいて培ってきた県民大学としての考え方は、誰一人取り残さないというSDGsの多くの目標と一致している。その中で、高知県の健康長寿県構想の一端を担うために2010年に設置されたのが、高知県立大学健康長寿センターである。

高知県立大学健康長寿センターは高知県からの寄附を受け、2015年から「高知県中山間地域等訪問看護師育成講座」を実施している。急速な高齢化が進む高知県において、看護職者のうち訪問看護師は2%という現状の中、「最期ま

で住み慣れた地域で自分らしく生きたい」という県民の強いニーズに応えるために、訪問看護師の人材確保・育成・定着に苦しみ訪問看護ステーションと協働して新任・新卒訪問看護師育成に取り組んできた。

「訪問看護スタートアップ研修」は講座の取り組みの1つで、大学の教育力・学習環境を活用し、受講者の経験と習得状況に応じた個別プログラム、高機能シミュレーターを用いた訪問看護現場を再現した環境での演習、そして訪問看護ステーションでの実地研修(OJT)を組み合わせた無料の研修だ。本来、訪問看護師は病院勤務などの経験を経て働くことが多かった職業だが、このプログラムでは新卒者や現場経験のない新卒者を訪問看護師として育成する。高知県立大学の卒業生に限らず他府県勤務者など外部からも受講者を受け入れることで、同じような課題を抱えた地域への貢献と同時に高知県への人材流入を図っている。

これまで約100名の看護

大学 × 自治体によるSDGsモデル

師が修了し、訪問看護ステーションでの訪問看護だけでなく、病院と地域をつなぐ病院の入退院支援の看護師として活躍しているほか、大学院へ進学し、さらなるキャリアアップを目指す人もいる。こうした持続性を持った仕組みづくりが地域課題の解決につながるのだ。

高知県立大学健康長寿センターは、これからも大学の「知

を活用して、高知県の健康長寿社会の構築、健康課題の解決に取り組む専門職者の知識・技術の向上、ネットワークづくりをサポートし、県民への健康啓発活動にも取り組んでいく。高知県が課題先進県から課題解決先進県、健康長寿県へと進化するために、県と大学が協働して医療・健康・福祉政策課題の解決を目指す。その挑戦に、これからも注目したい。



▲訪問看護場面を想定した身体観察の演習